

インターネット VS FM電波 比較表

受信方法		インターネット	FM 電波
緊急地震速報	発報基準となる場所	お客様指定住所 ピンポイント	数県単位の広域情報
	発報基準となる震度閾値	震度1～震度7 自由設定可能	地震警報発表時 (最大予測震度5弱・5強以上)
	予測震度	アナウンス可能	×
	予測猶予時間(秒単位)	アナウンス可能	×
保守料		必要 (ラビットは不要)	不要
通信状態保守		回線切断時にはメールと電話で連絡	×
代替機保守		無償	有償
放送設備など外部機器の制御		可能	可能

放送設備などの外部機器を制御

FM電波及びインターネットどちらの受信端末でも、放送設備、エレベーター、自動ドア、回転灯などの外部機器を制御することができますが、予測震度に応じて個別に外部機械を制御することができるのは、インターネットの受信端末となります。

発報基準となる場所

FM電波では、放送エリアの全ての場所に対して、全て同じ地震情報を配信します。

インターネットでは、受信端末の設置場所に対しての地震情報を配信します。(お客様住所の緯度・経度及び地盤増幅率を登録)

発報基準となる震度閾値

FM電波では、最大予測震度が5弱(または5強)以上の地震で、放送エリア内に震度4以上の地域がある場合に放送されます。

予測震度は放送されず、地震が来ることだけをお知らせします。

インターネットでは、受信端末で任意に震度を設定し、その震度以上の地震が予測される時だけお知らせします。

予測震度

FM電波では、予測震度はお知らせしません。地震が来ることだけをお知らせします。

インターネットでは、受信端末の設置場所に対しての具体的な予測震度をお知らせします。(震度1～震度7で設定が可能)

猶予時間

FM電波では、地震が到達するまでの猶予時間はお知らせしません。地震が来ることだけをお知らせします。

インターネットでは、地震が到達するまでの具体的な猶予時間を、秒単位でお知らせします。

保守料

FM電波の受信端末では、保守料は不要。

インターネットの受信端末では、保守料が必要となります。ただし、スーパーラビットは5年間、または7年間の保守料が不要。

通信状態保守

FM電波では、受信端末とラジオ放送局の通信状態を監視することはできません。

インターネットでは、受信端末と緊急地震速報配信サーバーの接続状態を遠隔監視していますので、通信障害が発生した場合、メールとお電話でお知らせすることができます。

代替機保守

本体故障時の代替機は、先出しで貸出いたします。

FM電波の受信端末では、貸出しは有償です。

インターネットの受信端末は、無償で貸出いたします。(修理は送付バック方式)

総発売元

緊急地震速報のリーディングカンパニー



株式会社 J コーポレーション

総合窓口 TEL 0742-53-7833

〒631-0011 奈良県奈良市押熊町 557-7-4F